

会 議 録

会 議 名 (審議会等名)		平成20年度 第1回 川西市青少年センター運営委員会		
事 務 局 (担 当 課)		教育振興部 青少年センター 内線(4500)		
開 催 日 時		平成20年 8月4日(月) 10:00~11:30		
開 催 場 所		川西市青少年センター 研修室		
出席者	委 員	益満良一、上馬 勇、渡邊富夫、森田文英、井上克己、秋田修一、 小牧直文、佐伯直樹、牛尾 巧		
	事務局	松岡寛一、平野圭祐、上中敏昭、中井裕子		
傍聴の可否		<input checked="" type="checkbox"/> 可・不可・一部可	傍聴者数	0人
傍聴の不可・一部 不可の場合は、その 理由				
会議次第		開会 1・運営委員の委嘱について 2・会長あいさつ 3・協議事項 (1)平成20年度 川西市青少年センター事業 (2)平成20年度 夏季特別補導強化期間実施要綱 4・その他 閉会		
会議結果		協議事項は(案)どおり了承		

1、運営委員の委嘱

運営委員会の冒頭に今年度新しく運営委員になられた方へ委嘱並びに辞令を青少年センター運営委員会会長の益満 良一教育長から交付された。なお任期は平成22年3月31日までである。

2、会長あいさつ

日頃より学校や関係機関等には青少年の健全育成のために格別のご尽力を頂き、心より感謝申し上げます。現在、各学校園は夏休みに入り多くの子どもたちは家庭での生活をベースに学習、部活動、野外体験活動、旅行や帰省などこの時期にしか出来ない貴重な経験をしていると思う。

最近の少年事件では、親との行き違いによって思わぬ行動に走ってしまう子どもの姿も見え隠れする。親子のコミュニケーションが取りにくくなっている家庭も増えてきている。そんな今、地域や諸団体、関係機関の方々が危機に瀕している「親子の関係」を補う「ナナメの関係」をつくり出していくことが重要である。

本日の運営委員会ではセンターの活動に関わる諸提案が行われるが実り多い協議になることを期待している。

3、自己紹介

資料の確認 自己紹介

4、協議事項（1）

〈事務局説明〉

（1）平成20年度 川西市青少年センター事業について

- 1 平成20年度の重点事業
- 2 業務
- 3 年間活動計画

質疑応答

（会長）

協議事項（1）報告をしたが、関係諸機関で何かあれば伺いたい。

（委員）

警察本部では青少年育成事業として「少年の居場所づくり」に取り組んでいる。又、少年事件等においても適確に素早く処理することに重点を置いている。

「居場所」のない少年がタムロしている現状がある。少年に「居場所」を与えて目的を持たせて取り組ませたいと考えているが、方法は試行錯誤している。

川西市も全国、県の統計と同じで犯罪者に占める少年の割合は37%～38%である。

最近も4名の少年をリンチ事件で逮捕する事案があった。少年の交友範囲が広域であり他府県、他市に関わる事案であった。

青少年補導活動において、少年の立ち直り支援については難しい状況がある。保護者も難しい。

（委員）

青色回転灯装備車両による巡回パトロールを実施されているが、地域の実態を把握されているのか。これほど重点的に巡回しているのであれば地域との連携を深めていけばより効果的になると思う。安全・安心にはとても良いことなので効果

的にして頂きたい。

(事務局)

ある程度把握はしている。その活動も地域のパトロール会議等に出席し情報交流をしているので、今後も有効なパトロールになるように努めていきたい。

(委員)

昨年、川西能勢口駅周辺でタムロしている少年7～8人に出会った。その中に顔見知りの少年がいたので話をしたら、川西の少年だけではなく大阪やその他の方面から来ていた。ただ、巡回するだけではなく、子どもたちの実態を把握しながら声をかけていくことが肝心である。子どもの中に入り込んでいくと打ち解けられるのではないかと思う。顔なじみになっていくことで話が出来ていく。声かけは地道な活動であり、子どもとの繋がりが大切であると思う。もう一步踏み込んでいただければと思う。

(委員)

子どもを知っているということは大きな意味がある。

学校でも1年から3年まで教師が持ち上がると子どもたちとの関係が深くなる。

(委員)

P T Aでも市内7中学校インターネットアンケートと同様に実施したが、回収率が極端に低い。学校から配布されたアンケート用紙が子どもから親に手渡せられてない状況もある。P T Aとしては保護者が子どもの現状を知ることが目的である。ケータイ所持は高校生が圧倒的に多い。理由は「持ちたいから」と特に理由はない。小学生はさまざまな理由があるが、真意は良いと思わない。

教育委員会が作成した「ちょっとまってね！インターネット・ケータイ」のリーフレットを利用し、啓発を進めていきたいと思っている。まずは親が気付くということから動いていきたいと思っている。

(委員)

補導委員会においても繁華街活動グループが出来たことで他の7地区の補導委員も夜間補導など活発にされている。有害図書、自動販売機など子どもたちの環境のケアにも気を配っている。保護者としても感謝している。

学校安全協力員の方々にも登下校の見守りに感謝している。P T Aは、子どもを送り出す側であるが、一歩家の外に出て見送ることをお願いしている。

(会長)

『インターネット・携帯電話に関するアンケート結果』の「悪口を書き込まれたり嫌がらせをされた時、誰に相談したか。」の質問で「誰にも相談しなかった」が45%とある。相談する相手が少ないのか、とても気になるが、そのところについて意見を伺いたい。

(委員)

アンケートをとったりリーフレットを出しているが、今後の指導をどうするのか。教育委員会としてどのように考えているのか聞きたい。

(委員)

子どもたちが主体的に危機回避する能力を身につけ実践を行うことが大切である。統計調査、リーフレットを使って親子の対話ができたり、学校においては学級、委員会、生徒会、総合学習の時間などの機会を有効に利用したい。

2学期以降、「親子対話のきっかけ」「学級活動」にどれだけ問題提起できるかを問われるところである。

「居場所」についても、今、あらゆるところで求められている。小さい時から目的を持った生き方はキャリア教育にもつながる。

「安全」については、かなりの枠がある中で考えていかななくてはならない。地域全体が安全であることがとても重要なことである。

(委員)

ケータイの普及は止めようがないが親の問題が大きい。協力を得られない親に対してどうしていくのか、地域から雰囲気盛り上がり親が感じる必要がある。

(委員)

「どうしたら親の教育が出来るのか」社会教育委員の会でも話題にあがったが、結論は出ていない。

現状の中でどうしていくのか。ケータイを持たせる段階で、親子間でルールを決めることの必要性やさまざまな問題が起こる前に約束をさせていくことが、今、親として出来ることではないかと思う。

(事務局)

昨年度の地域の動きとしては清和台地区、多田中学校保護者がサイバー犯罪の研修を実施している。

(委員)

インターネット・ケータイのリーフレットをぜひ親向けに使って頂きたい。

(会長)

行政としても今後、積極的に取り組んでいきたいと思っている。

5、協議事項(2)

〈事務局説明〉

(2) 平成20年度 夏季特別補導強化期間実施要綱

平成20年度 夏季特別補導強化期間実施事業及び補導活動予定表

(会長)

地域や補導委員の皆様にはお世話になりますがよろしく申し上げます。ご意見
申し上げます。

(委員)

納涼祭などの巡回については、開催中は特に問題はないが、終了後に周辺の巡回をお願いしたい。又、その地域のことに精通した方とまわっていただくとより様子がわかって良いと思う。

6、その他

(委員)

ケータイについて、アメリカでは親の許可なくして持てないシステムになっている。このように市だけではなく国をあげて取り組んでいかなければ進まない。まずは川西市として県に向けそして国に向け発信していくことが必要であると考える。

審 議 経 過

No. 4

(会長)

貴重な意見を頂きありがとうございます。今後のセンター運営についても青少年の健全育成の観点からさまざまなご意見をいただければ幸いです。

閉会